

# 第2号 稲作管理特報

令和4年4月15日  
朝 日 町  
黒東地域農業技術者協議会

育苗期間中は、天候の変化が激しい時期です。近年の育苗期間の気温は高い傾向があるので、ハウス内が高温にならないよう十分換気するとともに、的確な水管理を行い、活力の高い苗に仕上げましょう。

## 1 育苗管理 ～温度管理に注意し、換気を徹底する～

- (浸種) ・浸種袋の色分けやラベル付けにより、品種の区分管理を徹底しましょう。
  - 十分に浸種期間を確保しましょう(浸種期間の目安:7～10日程度)。
  - 浸種時の水温は10～15℃を保ちましょう(発芽揃いを良くするため、特に浸種初日は12℃以上を確保しましょう)。
  - 浸種始めは2～3日程度、水の交換をしないでください。
- (催芽、播種) ・催芽及び出芽時に「育苗器」を使用する場合、温度は30℃を厳守してください。
  - 播種量は、1箱当たり乾籾で120g(催芽籾150g)程度としましょう。
- (搬出) ・ハウスの搬出直後は、土が落ち着くまで水をしっかりかけましょう。
- (ハウスの温度管理) ・育苗ハウス内の温度は25℃を超えないよう、搬出直後から換気を行いましょ。ただし、夜温が10℃以下になると予想される場合はハウスを早めに閉めましょ。
- (育苗期間) ・適正な育苗日数の活力の高い苗に仕上げましょ。
  - 5月15日植えの育苗日数(播種日～田植日)は19日です。
  - 密苗では老化苗にならないよう計画的な作業を心がけましょ(育苗日数16日で十分なマット強度が得られます)。

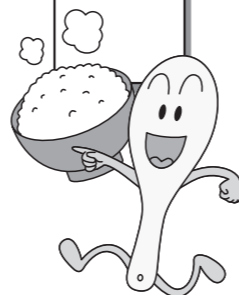
	浸種日	催芽日	播種日	搬出日	田植日	育苗日数
通常	4/17	4/24	4/26	4/29	5/15	19日
密苗	4/21	4/27	4/29	5/2	5/15	16日

## 2 苗箱施薬剤の散布 ～除草剤と間違えないよう、散布前に必ず確認する～

- 一般栽培の品種(「コシヒカリ」、「てんたかく」、「てんこもり」、「新大正糯」など)には次の薬剤を使用ましょ。
- 「富富富」にはできるだけ下記の薬剤を使用せず、別で発行する「富富富」特報を参考にして下さい。

	苗箱施薬剤	使用方法
通常	ルーチンブライト箱粒剤	・は種時覆土前～田植当日 1箱当たり50g
密苗(推奨)	ブーンレパード箱粒剤	・田植時 側条施用 10a当たり1kg ・は種時(覆土前)～田植当日 1箱当たり50～100g ※10a当たりの使用箱数に応じて施用量を調整し10a当たりの施用量が1kgとなるようにましょ。

みな穂の米づくりのスタートは、「健苗育成」から!!



- ・均一に散布し、苗に付いた薬剤を払い落とし軽く水をかけましょ。
- ・育苗後に育苗ハウスで野菜を栽培する場合、は種時(覆土前)の処理やハウス内での散布は行わないでください。

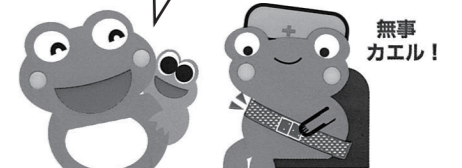
## 3 耕起・代かき ～根張りを良好にするとともに、除草剤の効果を高める～

- (浸種) ・作土を深くすることで、根張りが良くなります。
    - 耕起作業は、ほ場が乾いた状態でゆっくり起こし、作土深を15cm以上確保ましょ。
    - 作業速度を落とすとともに、ロータリの回転も低速(PTO1速)にして、ていねいに作業を行いましょ。
  - (代かき) ・代かきは浅水にして稲わらをしっかりすき込むとともに、ほ場の均平に努めましょ。また、浅水で行うことで、一発肥料の被覆殻の流出防止にもつながります。
    - 代かきは田植えの2～4日前に行ってください。
    - 代かき後の濁り水は、ほ場外に流さないでください。また畦畔沿いに吹き寄せられたワラなどの浮遊物は除去ましょ。
- トラクタ作業後、道路に落とした泥の塊は早急に片付けましょ。

## 4 農作業安全 ～トラクタのほ場や道路からの転倒・転落死亡事故防止!～

- ・安全フレーム付きのトラクタを使用し、シートベルトを必ず着用ましょ。
- ・作業終了後、ほ場を出る前にブレーキ連結を確認ましょ。
- ・カーブでの減速、一旦停止を行いましょ。
- ・移動道路やほ場の危険箇所を確認ましょ。

シートベルトしめた?  
ヘルメットかぶった?



春の土づくり運動 (令和4年3月～5月)

春の農作業安全運動 (令和4年4月～5月)

★JAみな穂営農情報メールを配信しています。

主な情報  
提供内容

- ・水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・気象情報と災害防止の対策

右のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

